

株式会社 日栄建設

【システム名】コスト削減と自社施工実績による建設市場での競争力を向上させるための共有データベースシステムの構築



企業概要

設立 昭和50年10月
 代表者名 下谷内 芳昭
 所在地 札幌市厚別区厚別西1条1丁目1-50
 従業員 49名
 TEL 011-892-4517
 FAX 011-892-5333
 HP <http://www.nichiei.ws/>

事業概要

当社は、公共土木工事に特化した企業であり、北海道開発局・北海道・札幌市が主な受注先です。主な事業は、上下水道工事、道路改良・情報ボックス工事、河川改修・砂防工事、防雪・防災工事、用水路・排水路・水田工事、漁港・港湾工事、除排雪などです。公共工事の削減が続く中で生き残っていくために、徹底して品質にこだわるとともに、コスト削減に努めています。元請で受注した工事の状況をホームページで公開する試みも始めています。

ITとの出会い（きっかけは…）

当社は公共土木工事をメイン業務としています。発注元の官公庁において建設CALS/EC（設計、製造、調達、決済をネット上で行なう規格）の導入が推進されていることから、電子調達、電子納品への対応が必要不可欠となり、営業部門および工事部門でIT化を始めたのがきっかけです。

ウチの経営課題（IT導入の背景）

当社では、平成13年に自社サーバ2台（メールサーバ・ファイルサーバ）を設置し、インターネット接続プロバイダーとは専用線（128kbps）で接続し、営業所および作業所・本社間の通信を電話回線によるダイヤルアップで接続して日常業務を行なってきましたが、通信速度の問題・電話回線使用による通信コスト等の問題が表面化してきていました。そんな折り、札幌市中小企業支援センターのIT専門家派遣制度があるのを知り、早速申し込みさせていただきました。

システムの概要と効果

当社のシステムとしては、平成10年に汎用性のある実行予算ソフトをベンダーと協力し、3年がかりで建設業により適したシステムへのカスタマイズを行いました。日々の作業日報と連動させることで、実行予算書をベースにして、原価管理の一元化を実現さ



せました。また、社内のコミュニケーションツールとしてグループウェアの導入および通信インフラの再整備を実施し、光ファイバーによるブロードバンドへ切り替え、セキュリティにすぐれたIP-VPN（公衆回線を利用した通信網）により本社と営業所・作業所を結びました。また、IP電話（インターネットを利用した電話）の導入も行なったことで、従来の通信コストが40%削減でき、さらに通信速度の高速化による業務の効率化を図ることができました。

ウチのシステム、ここがすごい!!

工事ごとの実績（施工歩掛）をデータベース化し、当社の全技術職員が情報共有することで、実行予算作成時に適切な単価の把握ができるとともに、作業コスト削減の検討材料に大いに役立っています。工事ごとの実績や原価とともに、問題やノウハウまで工事部全体で共有することで、品質改善が続いています。

ここが大変、ITの導入

平成13年度に通信インフラ等を含め初期導入した時は、数社のベンダーに見積りを依頼し、提示価格を基準にしてベンダーを選択していました。

しかし、システム構成・業務形態等の打ち合わせ時に、こちらの考えがうまくベンダーに伝わっていませんでした。運用開始してから、システムに不適合な部分が出たため、修正にかなりの時間を要し、業務に少なからず支障をきたしました。

IT利活用で広がる夢

将来的には、導入した自社システムを定着させ、工事実績データベースがある程度充実した段階で、当社の協力会社も含めてネットワーク化したいと思っています。これにより発注・請求業務の電子化を行なって業務全体の効率化を図るとともに情報の共有化も推進したいと考えています。



建設業実行予算システムTOP画面



ITについてウチはこう考える

建設業界は厳しい時代に入り、受注競争の激化への対応・コストの削減等の必要性が極めて重要です。これにより対応していくため、自社施工技術の向上のためのデータベース化・新技術工法の情報及び他社との連携が求められています。このような状況下で、ITは当社にとって必要不可欠な経営ツールとなっています。



IT導入に関わった企業
または推薦者

(有)アイエムオール + ITコーディネータ 赤羽 幸雄氏 + IT経営塾

事例に関するお問い合わせ

担当者：常務取締役 小山内 守